

住まいるアップ・ニュース

第12号

2012年3月26日発行（最終号）

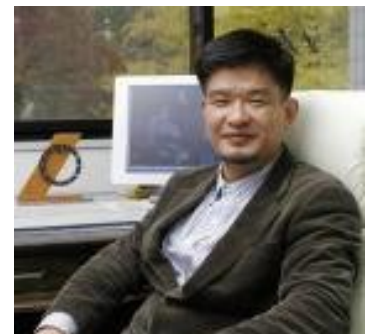
シニア期をどのように住むか？

北海道大学大学院工学研究院教授（住まいるアップ委員会委員長）

瀬戸口 剛

人生 80 年といわれるなかで、シニア期を「どのように生きるか？」はだれもが考えるが、「どのように住むか？」は、意外と意識されていない。定年後の約 20 年もの間、どのような住まいに住むか？を考えることは大切なことだ。それまで住み慣れてきたわが家に住み続けるのが当たり前だ、と言われるが、今の住宅は、職場に通勤すること、育ち盛りの子供がいることなど、いろいろな条件のなかで選択した住宅であり、必ずしもシニアの生活に合った住宅とは限らない。もちろん、今の住宅に住み続けられればよいが、身体的に衰えて、それが叶わない場合も多々ある。

住まいるアップ委員会が高齢者住宅の入居者に行ったアンケートでは、いま住んでいる住宅に入居する前に、別の高齢者住宅を見学している人はわずかに 25%で、いまの住宅のみ見学した人が 40%、全く見学もせずに入居している人が 30%もいる。住む場所に切羽詰まった状態で、見学して比較検討する余裕すらなかったのであろうが、これからの短くはないシニア期の住まいが、あまりにも考えられていない。私たちは住まいるアップ委員会で、安心して住める高齢者住宅につい



て検討してきた。住宅の広さや性能から提供されるサービス、それらに関する契約など、最低限備わべき住まいの要件を導き出してきた。その内容は最低限の要件ではあるが、高齢者住宅の情報提供はいままであまり取り組まれてこなかっただけに、大きな成果であろう。今後はさらに、シニアにとっての豊かな住まいを考えていく必要がある。緑のなかでゆったりと暮らしたい、街なかでいつも人とかかわりを持っていたい、コミュニティのあるなかで楽しく暮らしたい、子供や孫にいつでも会えるよう近くに住みたいなど、シニアが求める住まいは多様であるとともに、生きかたそのものでもある。それらにも応えられる情報提供も今後求められる。シニアの住まいを考えて、これから「どのように住むか？」は、結局「どのように生きるか？」に立ち戻ってくるのだろう。

— 目次 —

- シニア期をどのように
住むか？……瀬戸口 剛 ……1
- 第6回事業者勉強会を
開催 ……2
- 事業者連絡会設立説明会 ……2~3
- 北海道高齢者向け住宅
事業者連絡会の第1回
設立総会を開催！ ……4
- 編集後記 ご挨拶 ……4

第6回事業者勉強会を開催

(仮称)北海道高齢者向け住宅事業者連絡会設立説明会記念講演(平成23年度第6回安心・快適住まいるアップ事業者勉強会)を、2月10日午後、札幌市民ホールにて開催しました。連絡会設立説明会記念講演を兼ねた、当事業最後の勉強会となり、高齢者住宅事業者はもちろんのこと、医療や介護、建築・不動産関連、広告代理店など多業種の方、108事業者151名が参加されました。団体設立への関心の高さが伺える会となりました。

【記念講演 高齢者向け共同住宅への期待
～介護保険改正と地域包括ケア～】
奥田龍人氏(NPO法人シーズネット副理事長)



長寿・高齢化速度・高齢化率や、各国の人口高齢化率の推移などのデータを用い、少子高齢化の事例として「奥田家」を取り上げるなど、身近な例を織り交ぜてお話いただきました。

また介護保険サービス導入に至るまでの経緯として、高齢者の機能低下と住宅のことについて触れ、段差や広さのこと、掃除や除雪の問題などで、戸建てからバリアフリーマンション、高齢者向け住居へと、終の棲家が段階的に変化していくことへの流れの説明がなされました。

また、地域包括ケアシステムが作られることになった理由や、介護報酬、サービス付き高齢者向け住宅の現状について、さらに、これから高齢者向け住宅について、今後事業者連絡会が果たすべき役割としての、入居者・住宅運営事業者・介護事業者・権利擁護のための第三者評価・行政等の関わりについてお話いただき、講演を終了しました。

事業者連絡会 設立説明会

【(仮称)北海道高齢者向け住宅事業者連絡会設立説明会】

説明:鹿野 憲 氏(連絡会 設立発起人代表)

はじめに発起人の紹介があり、続いて設立発起人代表・鹿野氏から、会の設立に至った経緯、会則、活動方針、予算案、具体的な事業内容について順にお話しいただき、事業者連絡会への加入を呼び掛けていただきました。

【設立説明会質疑応答】

回答者:鹿野憲 氏、石田幸子氏、奥田龍人 氏
司会:立花和浩(札幌・住まいるアップセンター)

質問および発言は、概ね次のとおりです。
詳しくは、札幌・住まいるアップセンターHPをご覧ください。

・会費について住宅の戸数に乗じた金額とするのではなく、現場の状況に応じて人数割等を考慮すべきでは?事業者の申告が正しい数かどうかをチェックする方法も無いと思いますが。(質問:新ひだか町 静内ケアセンター 下川氏 回答:鹿野氏、奥田氏)

→少人数の入居者様を一生懸命支えられていらっしゃるどころと、30~40人もの方々を抱えているところでは状況も異なると思いますので、総会前に検討させていただきます。(鹿)

→私どもでも途中で「人数でいくりにするか」あるいは「1事業所はいくらにしても2~5、6~10とで変えるか」という意見は出ておりました。今のご意見もいただきましたので検討し、決定事項については総会前に住まいるアップセンターのHPに掲載したいと思います。(奥)



・会費規定に関連してお聞きます。社団法人などでは賛助会員半額だったり、そういうところが多いように感じています。こちらは正会員と賛助会員が同額ですが、賛助会員のメリットをどんなところにあるのか教えてください。

(質問: 一般社団法人北海道空調衛生工事業協会 小林氏 回答: 奥田氏、石田氏)

→どちらかという住宅事業者を正会員と捉えていたのですが、賛助会員はある程度寄付的な意味合い、あるいは応援していただくイメージで考えておりました。本日配布の資料の中に連絡会加入へのご案内に会員メリットを記載しておりますので、こちらをご覧ください。またこの用紙の一番下に「アイデアをお寄せ下さい」とあるように、みなさまから「私共はこういう情報が欲しい」といった声をお寄せいただきましたら、そのような形にしていきたいと思っておりますので、いろいろ寄せていただければありがたいと思っております。(奥)

→今回勉強会の企画委員で、今後の活動に向けて、実際にこのままのせっかくの動きを潰したくない継続したいという思いで発展的に考えました。会費の1万円、それと住宅を数多く持っているところには、かける住宅の数だけいただきましょう、というのは実際にスタートしてみないとこの事業が成り立って行くのかもわからないのです。そのためになんとか検討しながら決めた金額です。そういう意味でスタートし動き始めてから、その実情に合わせていろいろな検討を加えていきたいとは思っています。なるべくご理解をいただいて、スタート時の私共の思いを、ぜひ皆さんの中で応援するという意味で会費の1万円を考えていただければありがたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

(石)

→会場の後方で高齢者住宅の情報誌を販売しておりますが、これを営業の訪問先リストとして活用されている業者様がいるとお聞きして

おります。例えば訪問看護、訪問診療をされている皆さまですとかです。どういう風に(この会を)上手に利用するかということをお皆さんで考えていただいた方が良いのではないかなと思います。その上で(入会するか否かの)ご判断をいただくということになるかと思ひます。

(立)

・活動方針(案)の事業費ですが、この中でホームページの立ち上げ30万とありますが、居住安定化推進事業と記載があります。国交省の事業だと思ひますが、自信が無いのでこのご説明をいただきたいのですが。

(質問: 医療法人重仁会 佐々木氏 回答: 奥田氏)

→国交省の事業です。どちらかという、「サービス付き高齢者向け住宅」の推進事業で、このような事業というよりは、実際には建築への補助の事業です。ただ、高齢者住宅を評価する、とか、あるいは情報を市民に伝えるという事業も受け付けている、ということは聞いておりますので、申し込もうと思ひています。私ども事務局の「札幌・住まいるアップセンター」は人件費を計上しておりませんので、結局ボランティアでやることになる訳です。この居住安定化推進事業の方で「札幌・住まいるアップセンター」は評価事業をやろうと思ひていますが、その評価事業が出来れば、人を雇うことが出来るかと思ひます。そうしますとこちらの(連絡会)事務局のお手伝いも出来るのかなというイメージで考えております。今のところスタッフは私・奥田と立花になると思ひます。(奥)



北海道高齢者向け住宅事業者連絡会 の第1回設立総会を開催！

設立総会に先立ち、国際医療福祉大学大学院教授で財団法人高齢者住宅財団理事長の高橋紘士先生をお招きし、「地域包括ケアの時代におけるサービス付き高齢者向け住宅の意義を考える」と題した記市民セミナーを兼ねる記念講演を実施しました。

休憩を挟み、「(仮称)北海道高齢者向け住宅事業者連絡会 第1回設立総会」を開催しました。当日現在、正会員21社(71住宅)、賛助会員21社(個人会員を含む)で、正会員15社を含む約50～60名ほどの参加者がありました。

会議次第に沿い、議長選出、議事録署名人の選出、資格審査報告の後、会則、活動方針、予算について提案し、原案通りで議決されました。また、初代会長には、理事会の互選により、NPO法人シーズネット副理事長で北海道社会福祉士会相談役の奥田龍人氏が就任しました。

同封別紙の通り、連絡会では引き続き正会員・賛助会員を募集しております。

多くの事業者の皆様のご参加により、連絡会が大きく発展することを期待します。

— 編集後記 ご挨拶 —

頑固な根雪もやっとゆるむ季節を迎えました。

札幌市保健福祉局保健福祉部より委託を受け、3カ年計画で高齢者対応共同住宅等に関する事業を展開して参りましたNPO法人シーズネット「札幌・住まいるアップセンター」の事業も、平成24年3月31日をもって終了し、ニュースレターも本紙が最終号となりました。

事業実施中には、高齢者対応共同住宅の事業所の皆様より、多大なるご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。略儀ではございますが、書中をもちましてご挨拶を申し上げますとともに、皆様の今後のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。

なお、市からの委託事業は終了いたしますが、「札幌・住まいるアップセンター」は存続し、引き続き高齢者の住まい関連の業務を進めてまいる予定です。

また、「平成23年度業務報告書」をまとめました。本報告書をはじめ、本事業の成果の一部について、4月初旬より下記ホームページにて当分に間、公開・ダウンロードができるように致す予定です。広く皆様に活用いただけることを期待しております。

安心・快適住まいるアップ事業

札幌・住まいるアップセンター(シーズネット内)

TEL 011-708-8567 FAX 011-717-6002

<http://smile.seedsnet.gr.jp/>

info-suc@seedsnet.or.jp

～新時代を創る高齢者の経験と活カネットワーク～

SEEDS NETWORK

Seniors' Experiences and Energies for Developing New Systems

高齢者による新しい仕組みづくりの種になりたい、そんな気持ちを込めました。



NPO法人シーズネット

〒001-0010

札幌市北区北10条西4丁目1番地 SCビル2F

代表 TEL 011-717-6001 FAX 011-717-6002

<http://www.seedsnet.gr.jp/>

—その他の事業—

孤立死防止・地域連携ネットワークモデル事業

さっぽろ孤立死ゼロ推進センター(シーズネット内)

TEL 011-708-8686

高齢者住宅相談情報センター

あんしん住まいサツポロ

〒060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目 オーク札幌ビル1F

TEL 011-210-6224